

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200396		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生会		
事業所名	グループホーム青海苑(東館)		
所在地	熊本県宇城市三角町郡浦739-5		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村報告日	平成29年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5-22
訪問調査日	平成29年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

不知火海を一望できる静かな岬に位置していますが、集落とは離れている為できるだけ地域に出掛けるよう心がけています。地域のサロンに出かけ近所の方との時間を作るよう取り組んでいます。苑庭の散歩やドライブ等に出掛けたりして季節を肌で感じていただくよう心がけています。誕生会などの行事にはご家族の参加もあり、敬老会では入居者のお好きなメニューを中心に手作りの料理を楽しんでもらっています。裏の畑には季節の野菜をつくり、入居者の方との収穫、散歩中には野菜の成長を楽しみに話しに花が咲きます。入居者のペースに合わせ、入居者の発する言葉、声にならない思いをくみ取り、理解し、入居者の方の今を大切に寄り添ったケアができるようにと取り組んでいます。法人内の異動もあり徹底できていないのが現状です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南国を思わせる程の海を望む高台に位置し、四季折々の花や木々が目を楽しませてくれる環境の中、入居者は穏やかな生活を送っている。敷地内には法人の他事業所もあり、渡り廊下で行き来出来る小規模多機能事業所の利用者とは毎日の交流がもたれている。職員は入居者の担当を持つものの2ユニット全員の状況を把握・対応しており、日頃のチームワークが活かされている。ここ数年職員の入れ替わりも見られたが、設立以来の入居者へのケアの姿勢は引きつがれ、更に改善を進めながら安心した生活を送ることが出来る様、連携した支援体制が築かれてきた。立地状況から地域との関わりを課題と感じてることから、法人・職員による積極的な取り組みが見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで理念の作成を行い、毎朝スタッフと唱和し、共有しながら実践に努めている。	職員で作成した理念は毎日唱和し、日誌の表紙にも貼付られ、日々の業務に根付いている。入居者に対する思いのこもった理念は事業所で長く受け継がれており、理念と併せた目標を念頭に業務にあたっている。	小規模多機能事業所も併設され職員体制も同じであるため、それぞれの社会的役割等を改めて職員で認識しあい、理念に基づいたケアへの振り返りの機会を持たれることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やドライブ、地域の行事等参加するように努めている。また法人の職員全体で奉仕作業や祭りなどの参加も行なっている。	地域の方からの依頼でホールを開放したり、中学生の職場体験受入れ、事業所見学、季節行事への参加等、様々な機会を持っている。入居者の地域行事への参加も積極的な支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会などから依頼があり、ホーム内の見学や法人の事業所説明などの勉強会にふれあいホールを使用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括支援センターや地域の住民の代表にも同席してもらい、地域の情報や地域密着型サービスの情報発信、意見交換など有意義な会議となっている。	併設の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月に1回開催し、関係者の他、第三者の出席も見られ充実したメンバー構成である。熊本地震後、地域の現状や災害対策についての意見も活発にみられる。	小規模多機能事業所と運営推進会議が合同であることから、地域密着型サービスの中でグループホームと小規模多機能事業所の特徴や違いを参加者に理解して頂けるような取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告を行っており、運営推進会議にも欠かさず出席いただいている。	毎月実績報告提出のため担当者に出向き、顔を合わせることは協力関係作りに繋がっている。また運営推進会議に毎回参加があり、事業所の状況を直接伝える機会としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアは日常化していてホーム内は開放している。	身体拘束しないケアを基本としてケアに当たっている。海に面した高台に立地しているため特に入居者の離苑には気を配り、見守りを徹底している。職員は研修にも参加し、参加後は会議を利用し全職員への報告を行い情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相談会・勉強会で虐待が無いように徹底している。		

グループホーム青海苑

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用されていた方もあり、職員への報告や制度についての説明は行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行なっている。その他不明な点については面会時等にお尋ねいただいたり、こちらからも家族や入居者に気軽に疑問をぶつけていただけるような関係を築けるよう日頃から取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等には家族に声掛けし、なるべく参加していただくよう声掛けをしている。来苑時にご家族同士、スタッフや家族との会話の中から意見を引き出せるよう努めている。	面会時には職員が家族に声を掛け、また苑行事への参加時や運営推進会議を家族の意見を聞く機会としている。職員はそれぞれの担当入居者へ毎月お便り発行、日頃の連絡等、家族とのコミュニケーションも大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議の中で職員の意見交換、勉強会を行なっている。	毎月の会議や毎朝の申し送り時に意見を出すことが出来、その場で話し合ったり会議で改めて議題にし解決に向けた取り組み体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務スケジュール作成前には全スタッフに希望をききできるだけ希望を受け入れたスケジュール作成を行なっている。勤務変更も支障が無い限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるように配慮し勤務も調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会などの勉強会の参加を勧めている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時に状況の把握を行い入居後もしっかりかかわりを持ち、プラン作成等に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時に伺ったり、入居前にショートステイを利用してもらったり、事業所の見学をしてもらったり、グループホームでの生活をイメージしやすくしていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に本人や家族の思いに添えるように、法人内のサービスも説明を行いニーズにあったサービスの選択が出来る様関係部署と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関わる時間を多く持ち、できることは一緒にしてもらい役割を持ってもらうようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り家族との時間を過ごしていただけるよう面会時には自室でゆっくり過ごしていただけるよう環境整備したり、行事の参加声掛けなど行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区のサロンに顔を出したり、お祭りを見に行ったり関係が継続できるようにしている。	家族の関わりを大切にしており協力による外出の機会も多い。周辺環境から特に近隣との関わりが途切れないことを課題として意識しており、ドライブや買い物、法人内他事業所の訪問等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓を共に囲み、レクリエーションや散歩など共に過ごす時間、関わりを持てるようにしている。		

グループホーム 青海苑

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の代表で運営推進会議の委員を務めていただいた方にご家族が亡くなられた後もそのまま委員として残って頂き地域の方の立場として意見を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中の表情から希望や意向の把握に努めている。	職員は入居者との「関わり」を大切にし、入居者と個別に対応する時間は特に思いや意向を表せる時間としている。近年高齢化や身体能力の変化により入居者からの意向の把握が難しくなっているが、家族の協力も得ながらケアに臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や入居時に家族や本人にお話を聞いたりしてできるだけ本人の望む形に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの継続や好まれる活動の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり家族や本人の意見を取り入れながら計画作成を行なっている。	担当者を中心として職員の意見を取り入れながら、介護計画作成者および管理者を交え、半年毎に家族の意見も取り入れて見直しを行っている。入居間もない間や体調の変化時は担当者、計画作成者、管理者で話し合いを続け、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で細かい状況を残しスタッフ間で情報の共有が図れるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出支援はご家族にも相談し協力して頂いている。ドライブで入居者で行ける場所は計画しグループホームで出たりとその時に応じて対応している。小規模の利用者とも行く事もある。		

グループホーム青海苑

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に添いながら外出など行なっている。地域の催しものには積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。	入居前のかかりつけ医の受診を支援しているが、現状、協力医での受診が多い。協力医は月1回、歯科からは週1回の往診がある。その他専門医受診は基本的に家族の通院介助としているが、職員による通院介助の場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化がある時には介護職は看護師に連絡報告し対応の指示をもらっている。受診が必要な場合は夜間でも看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は状態に合わせて看護師が同行し転院時にはサマリー作成し情報提供する。入院中には面会に行き治療や本人の状況の把握に努め情報収集に当たっている。カンファレンスにも参加し退院後の生活支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向をふまえながらその人らしい最期を迎えられるように家族と共に取り組んでいる。状態悪化時にはその都度家族に報告し、意思確認、方針の確認を行い後悔の少ない看取りに取り組めるよう話し合いを行なっている。	契約時に重度化した場合について説明し同意を得ている。入居者・家族の希望により看取りを希望される場合には、都度家族との話し合いを持ちながら支援を行う。看護師が常勤であり、協力医・法人からの支援も大きく、協力・支援体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会の計画の中に救急蘇生法を年1回は組み込んであり、消防署に依頼して勉強会を行なっている。緊急時の対応についてはマニュアルを作成し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行なっている。	避難訓練は小規模多機能事業所と合同で入居者も参加し実施している。常時入居者居室に避難確認用の目印を準備する等、手順の確立が見られる。熊本地震後、運営推進会議でも地域の災害についての話し合いが持たれた。	災害は火事だけでなく様々な要因が考えられますので、火災以外の訓練も必要だと思います。特に地震の際には自事業所だけでの対応が必要ですので、検討に期待します。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりの中で一人一人を尊重した対応を心がけている。またプライバシーを守り秘密厳守を徹底している。	入浴やトイレの介助は1対1の介助を基本としている。特にトイレ使用の際は安易に過度な付添いをせずまた、声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情やしぐさから読み取ったり家族からの情報を元に思いを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食などは一人一人起床時間に合わせて、提供したり入居者の方の希望にそった思いの生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方については声掛けし支援している。自力では難しい方についてはスタッフが手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中やテレビ視聴中に季節の食べ物や好き嫌いについて会話して食欲をそそる献立、食事作りを心がけている。可能な範囲で食材の準備や下膳の手伝いなどスタッフと一緒にこなしている。	職員が立てた献立を事業所手作りしている。法人敷地内には野菜畑があり、季節の食材を取り入れている。食事時間は職員も同じ食卓につき、介助しながら時間を共に過ごしている。入居者の手伝いは以前より減ったものの、出来る範囲での関わりを支援している。	調理担当職員の配置により、他の職員が入居者と寄り添う姿がありました。近年車椅子利用者も増えた様ですが、食卓では出来るだけ椅子への移乗はできないでしょうか。対応の工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の病状や体調に合わせた栄養、水分摂取が出来るよう努めている。また接触能力に応じた食事形態の提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助など本人の能力に応じた支援を行なっている。		

グループホーム 青海苑

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表の活用で、昼間はできるだけトイレでの排泄支援に取り組んでおり、トイレ利用者も多い。夜は状況によりおむつの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜を多く取り入れた食事を提供し排便パターンを把握し緩下剤の使用も看護師の指導の下行なっている。苑庭散歩や体操など程度の運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分で決定できる方については希望に応じて行なっている。自分で決定する事が困難な方についてはその方の状況に応じて介助、支援を行なっている。	1日おきを基本とし希望があればいつでも入浴できる。機械浴も1ヶ所設置されている。入居者の状況により安全に配慮しながら、見守りを中心とした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方に応じて好まれる活動への参加、できる事への声掛け、促しをして日中の活動性を高められるよう取り組んでいるが、眠れない方については夜勤者にて対応する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の状態に応じて確実に服薬支援が出来る様取り組んでいる。飲ませ忘れやすい薬についてはチェック表作成しスタッフの意識付けに取り組み、処方変更の際には看護師が中心となり情報の周知、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで楽しんできた嗜好品等は入居後も楽しめるよう環境を整えている。また、ご家族からの情報も収集し自宅役割とされていた事の継続も可能な限り取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から希望を聞いたり、気分転換のドライブなど気候や天候、その方の体調や気分に合わせて出掛けられるようにしている。	敷地も広く、芝生の前庭で外気を感じたり、季節の花や野菜畑を楽しむ整備された散歩道を歩いたりと外に出ることも多い。日常的な職員とのドライブもよくみられ、隣接の小規模多機能事業所や併設の法人施設に出掛ける姿もある。	

グループホーム青海苑

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力的に困難な方が多く、ほぼ全員の方の小遣い程度の金額を預かり買い物などの際支援している。出納帳を作成し関わったスタッフがサインし、面会時等に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参され自室などで電話されている。電話などの希望があった場合は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりこまめに掃除換気を行い清潔に努めている。	広々として明るく掃除が行き届いた共用空間には季節の花が飾られ、ユニット間を繋ぐ渡り廊下には日頃の入居者の様子が写真で掲示されている。リビングはのんびり過ごせるソファが設置され、昼食後にくつろぐ姿もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも椅子などを置き他者と談話したりくつろげるような雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで自宅で使われていた家具や使い慣れた身の回りのものを入居時には持参されるよう声掛け、説明しその方が安心して過ごせる空間作りに努めている。	表札が掛けられている居室には使い慣れた品々が見られる。家族写真や蘭の花等それぞれの部屋の様子は、家族の関わりが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をかけ、トイレ、浴室などの表示も大きくし対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200396		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生会		
事業所名	グループホーム青海苑(西館)		
所在地	熊本県宇城市三角町郡浦739-5		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5-22
訪問調査日	平成29年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

不知火海を一望できる静かな岬に位置していますが、集落とは離れている為できるだけ地域に出掛けるよう心がけています。入居者の体力的な面からも近距離のドライブ等に出掛けたりして季節を肌で感じていただくよう心がけています。誕生会などの行事にはご家族の参加もあり、敬老会では入居者のお好きなメニューを中心に手作りの料理を楽しんでもらっています。裏の畑には季節の野菜をつくり、入居者の方との収穫、散歩中には野菜の成長を楽しみに話しに花が咲きます。入居者のペースに合わせ、入居者の発する言葉、声にならない思いをくみ取り、理解し、入居者の方の今を大切に寄り添ったケアができるようにと取り組んでいます、法人内の異動もあり徹底できていないのが現状です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで理念の作成を行い、毎朝スタッフと唱和し、共有しながら実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やドライブ、地域の行事等参加するように努めている。また法人の職員全体で奉仕作業や祭りなどの参加も行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会などから依頼があり、ホーム内の見学や法人の事業所説明などの勉強会にふれあいホールを使用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括支援センターや地域の住民の代表にも同席してもらい、地域の情報や地域密着型サービスの情報発信、意見交換など有意義な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告を行っており、運営推進会議にも欠かさず出席いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアは日常化していてホーム内は開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相談会・勉強会で虐待が無いように徹底している。		

グループホーム青海苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用されていた方もあり、職員への報告や制度についての説明は行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行なっている。その他不明な点については面会時等にお尋ねいただいたり、こちらからも家族や入居者に気軽に疑問をぶつけていただけるような関係を築けるよう日頃から取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等には家族に声掛けし、なるべく参加していただくよう声掛けをしている。来苑時にご家族同士、スタッフや家族との会話の中から意見を引き出せるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議の中で職員の意見交換、勉強会を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務スケジュール作成前には全スタッフに希望をききできるだけ希望を受け入れたスケジュール作成を行なっている。勤務変更も支障が無い限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるよう配慮し勤務も調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会などの勉強会の参加を勧めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時に状況の把握を行い入居後もしっかりかかわりを持ち、プラン作成等に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時に伺ったり、入居前にショートステイを利用してもらったり、事業所の見学をしてもらったり、グループホームでの生活をイメージしやすくしていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に本人や家族の思いに添えるように、法人内のサービスも説明を行いニーズにあったサービスの選択が出来る様関係部署と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関わる時間を多く持ち、できることは一緒にしてもらい役割を持ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り家族との時間を過ごしていただけるよう面会時には自室でゆっくり過ごしていただけるよう環境整備したり、行事の参加声掛けなど行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区のサロンに顔を出したり、お祭りを見に行ったり関係が継続できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓を共に囲み、レクリエーションや散歩など共に過ごす時間、関わりを持てるようにしている。		

グループホーム青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の代表で運営推進会議の委員を務めていただいた方にご家族が亡くなられた後もそのまま委員として残って頂き地域の方の立場として意見を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中の表情から希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や入居時に家族や本人にお話を聞いたりしてできるだけ本人の望む形に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの継続や好まれる活動の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり家族や本人の意見を取り入れながら計画作成を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で細かい状況を残しスタッフ間で情報の共有が図れるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出支援はご家族にも相談し協力して頂いている。ドライブで入居者で行ける場所は計画しグループホームで出たりとその時に応じて対応している。小規模の利用者とも行く事もある。		

グループホーム 青海苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に添いながら外出など行なっている。地域の催しものには積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化がある時には介護職は看護師に連絡報告し対応の指示をもらっている。受診が必要な場合は夜間でも看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は状態に合わせて看護師が同行し転院時にはサマリー作成し情報提供する。入院中には面会に行き治療や本人の状況の把握に努め情報収集に当たっている。カンファレンスにも参加し退院後の生活支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向をふまえながらその人らしい最期を迎えられるように家族と共に取り組んでいる。状態悪化時にはその都度家族に報告し、意思確認、方針の確認を行い後悔の少ない看取りに取り組めるよう話し合いを行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会の計画の中に救急蘇生法を年1回は組み込んであり、消防署に依頼して勉強会を行なっている。緊急時の対応についてはマニュアルを作成し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行なっている。		

自己 目	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりの中で一人一人を尊重した対応を心がけている。またプライバシーを守り秘密厳守を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情やしぐさから読み取ったり家族からの情報を元に思いを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食などは一人一人起床時間に合わせて、提供したり入居者の方の希望にそった思いの生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方については声掛けし支援している。自力では難しい方についてはスタッフが手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中やテレビ視聴中に季節の食べ物や好き嫌いについて会話して食欲をそそる献立、食事作りを心がけている。可能な範囲で食材の準備や下膳の手伝いなどスタッフと一緒にこなしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の病状や体調に合わせた栄養、水分摂取が出来るよう努めている。また接触能力に応じた食事形態の提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助など本人の能力に応じた支援を行なっている。		

グループホーム青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜を多く取り入れた食事を提供し排便パターンを把握し緩下剤の使用も看護師の指導の下行なっている。苑庭散歩や体操など程度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分で決定できる方については希望に応じて行なっている。自分で決定する事が困難な方についてはその方の状況に応じて介助、支援を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方に応じて好まれる活動への参加、できる事への声掛け、促しをして日中の活動性を高められるよう取り組んでいるが、眠れない方については夜勤者にて対応する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の状態に応じて確実に服薬支援が出来る様取り組んでいる。飲ませ忘れやすい薬についてはチェック表作成しスタッフの意識付けに取り組み、処方変更の際には看護師が中心となり情報の周知、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで楽しんできた嗜好品等は入居後も楽しめるよう環境を整えている。また、ご家族からの情報も収集し自宅役割とされていた事の継続も可能な限り取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から希望を聞いたり、気分転換のドライブなど気候や天候、その方の体調や気分に合わせて出掛けられるようにしている。		

グループホーム青海苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力的に困難な方が多く、ほぼ全員の方の小遣い程度の金額を預かり買い物などの際支援している。出納帳を作成し関わったスタッフがサインし、面会時等に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参され自室などで電話されている。電話などの希望があった場合は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりこまめに掃除換気を行い清潔に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でも椅子などを置き他者と談話したりくつろげるような雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで自宅で使われていた家具や使い慣れた身の回りのものを入居時には持参されるよう声掛け、説明しその方が安心して過ごせる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をかけ、トイレ、浴室などの表示も大きくし対応している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 青海苑
作成日 平成 29 年 12 月 21 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会が事業所の報告が主体となっている。	地域の情報収集や活発な意見交換・グループホームの情報発信を広く出来る様協力体制を作る。	地域の代表者に参加してもらっているので地域に向けて情報発信ができる機会の調整をする。	1 2 ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。